



関中学校だより

第7号 令和3年11月30日

ホームページアドレス <http://www.seki-j.nerima-ky.ed.jp/>

学びの広がり ～ その根底にあるもの ～

校長 大澤 秀吉

学校での学びが社会で役に立ちますか？

数学の方程式を使うことがありますか？

よく生徒から質問された言葉です。

学校での学びの根底には2つの側面があると私は考えています。

一つは、各教科の基盤となっている思考法を身につけることです。

今、三年生の面接練習を行っています。その練習中にある生徒が「好きな教科は何ですか？」の問いに対して「数学です。数学は決まった手順で解いていくと、答えを導くことができるので、好きです」と答えていました。その生徒の特技に、魚をさばくこととあったので、面接後の話の中で「特技の魚をさばくことと、数学の問題を解くこと、どちらも一定の手順で行うところが似ていると思いませんか？」と問いかけると「あっ！そうですね、同じですね」の答えがありました。

数学を学んで何が身につくかという、確かに問題の解き方などを身につけられますが、根本的な力として、物事を解決するための論理的に考える力が身につきます。

理科では、仮説を立てて検証することや結果を公表して多くの人が確認できるようにする方法や考え方を学びます。各教科の先生に聞いてみてください。

もう一つの側面は、人類が築き上げてきた知の歴史を学ぶということです。

先人たちの業績や先行研究などによって作られてきた法則や体系などが、あらゆる分野にわたり広がっています。いま、その基本となる部分を習得しています。

これを端的に表している「巨人の肩の上に立つ」という言葉があります。

知の歴史（先人たちの業績）を巨人にたとえて、巨人の肩に乗ること（それらを学ぶこと）が、新たなひらめきや発見につながっていくということです。

この「巨人の肩の上に立つ」は、12世紀のベルナルの言葉から派生したものとわれ、アイザック・ニュートンもその書簡の中で使用しています。

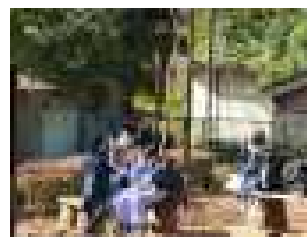
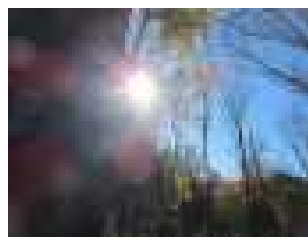
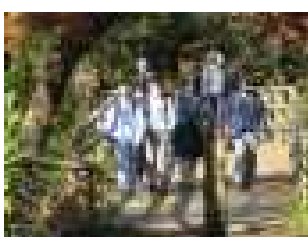
皆さんも、この2つの側面を踏まえて日々の学習に臨んでほしいと思います。

そうはいつでも、テストや入試など点数が存在するので、悩みは尽きぬところですが、テストの点数を見たときに「出来ない、嫌い」と考えないで、間違えた部分のとらえ方や導き方がいけなかったとを考えてみてください。

校外学習を行いました

11月25日(木) 1年 石神井公園めぐり(徒歩) 学校発 → 石神井公園 → 学校着

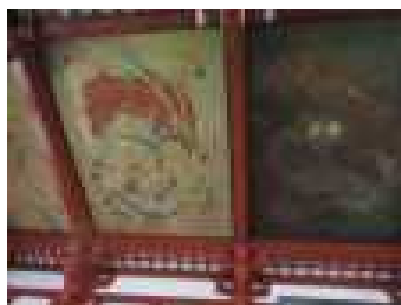
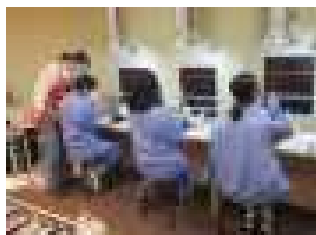
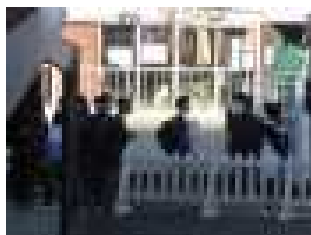
ルールを決め班員が協力して行動できるのか、初めての校外学習でした。



11月26日(金) 2年 東京めぐり (公共の交通機関) 学校発 → 都内各所 → 学校着

実行委員を中心に、校外学習の概要の決め、ルールの在り方など、多くの話し合いを経て臨みました。

テーマを選択し班毎に体験活動などを行いました。



【関中生の活躍】

中学生の「税の作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞 3年 O.Y さん

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年 H.K さん

練馬区西納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年 K.R さん

練馬区西納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年 T.N さん

練馬区西納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年 I.K さん

練馬区西間税会「税の標語」

練馬区西税務署長賞 3年 A.S さん

優秀賞 3年 T.M さん

佳作 3年 N.H さん

選挙啓発ポスターコンクール

東京都最優秀賞 3年 K.Y さん

東京都優秀賞 1年 A.M さん 1年 M.A さん

東京都入選 3年 M.A さん

練馬区入選 3年 M.R さん 3年 K.R さん

3年 M.F さん 3年 K.Y さん

2年 O.I さん 2年 Y.M さん 2年 E.M さん

1年 K.Y さん 1年 M.A さん 1年 H.Y さん